ダブリナーズ　姉妹たち読書感想文

230407 ぬしろかずや

(P＃＃はダブリナーズ　柳瀬尚紀訳の頁の意)
独りでふせぎこんでしまって、誰とも口を聞かず独りで歩き回るようになった(P24)
【問い】
フリン神父はなぜ発狂したのか？またそれの意味するものは？

【考察】
子供らの心は感化されやすいからよ。子供らがあんなふうに物事を見た日にゃ、その影響がな。(p14)
⇨コッター爺さんはフリン神父ならびに聖職者を信用していない。当時のダブリン市民も同様に考えておりカトリック教会の権威は失墜していたと考えられる。

自分もまた、あたかも聖職売買者の罪を赦そうとでもいうように、弱々しく笑っている気がした(p15)
⇨純粋な少年である僕はカトリックやフリン神父を信じているよう見える。しかし、フリン神父の罪を夢で見るように潜在的にはカトリック教会に対して違和感を覚えている。

むろんできることはしたつもり、貧しいなりに(P21)
司祭のお勤めは荷が重かったのよ。だから一生八方ふさがりの十字路に立っていたようなもの。(P23)
⇨司祭とて決して裕福なわけではなく、本人や家族の献身的な支えにより教会は何とか維持されていた。

―あの聖杯をこわしたものだから・・・。あれが事の始まりだった。(P23)
⇨権威は失墜し信仰心も失われていた当時カトリックの教義は形骸化していた。すなわち当時のダブリンでは儀式という「形式」のみがカトリックに残った最後の砦であった。しかし聖杯を壊してしまうことによりフリン神父は「形式」すらも失ってしまい名実ともに自らの神父としての精神的な拠り所を無くしてしまった。

【答】
　司祭及びその家族の献身的な支えにもかかわらず当時のカトリック教会の権威は失墜し形骸化していた。フリン師は聖杯を壊してしまうことにより精神的に拠り所にしていた「形式」を失い、発狂した。
　このことは信仰心が失われ形骸化しているにも関わらず、盲目的にカトリック教会というシステムが維持されている様子描いた当時のダブリンの「麻痺」と捉えることができる。

【参考文献】
Dubliners における三つの批判　大島由紀夫
https://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000001964/3-565.pdf